

8月23日、反原発自治体議員・市民連盟の5人で、2号機の再稼働が近づく川内原子力発電所内を視察しました。

昨年来、川内原発敷地内では保安林の伐採および、沈砂池の建設、大規模な盛り土工事が行われています。その光景を傍らに見ながら、降車して緊急対処施設内や津波・竜巻対策や制御練習施設などを見学後、車中で膨大な流量の温廃水などの説明を受けました。

九州電力と県森づくり推進課の説明によれば、工事は「特定重大事故等対処施設建設に伴う資機材保管ヤードの造成」ということですが、3号機増設につながる疑問点が浮上しています。

三反園知事は、伊藤祐一郎前知事が2012年6月、県議会で「私の在任中は3号機増設に係る諸般の手続き（注：保安林指定解除および公有水面埋立許可）を凍結したい」と答弁したことを知らないはずはありませんが、県の今回の保安林指

のぐち英一郎 鹿児島市議

定解除手続きに当たって、何らかの方針変更があったのか不安です。

見学終了後にテント村のある海側から、大規模な造成に土砂の積みおろしするトラックを観察しました。盛り土工事が進行する位置は、川内原発3号機増設のための工事計画図（環境影響評価書）の盛り土予定区域と重なります。客観的には3号機増設の事前着工とも見なせるのではないのでしょうか。

九州電力は8月29日午後9時30分、川内原発2号機の制御棒を引き抜き、核分裂を開始させると発表し、30日の昼前には臨界に達するとのこと。5月30日の川内1号機の「再稼働」に続く最悪の選択です。東海村とともに周辺5市が同意権を勝ち取った先進性に学び、議会の内外で原発のない地域の実現をこれからも目指します。



川内原発の展示館から原発が見える
けば・布施・新城・門間・のぐち各議員



テント広場の上方に3号機準備が疑われる
造成工事

浜にあるテント村の横断幕『未来ある子らに遺すな 核のゴミ 原発廃炉は 天の声』



当面のスケジュール

- ◆9月30日(日)
 - ①伊方原発反対現地集会(仮処分停止期限終了日) 13:30~15:30 伊方きらら館前歩道
 - ②蓮池透さん講演会 18:30~20:30 八幡浜市民スポーツセンター
- ◆10月20日(土)
 - 東海第二原発運転延長STOP 首都圏大集会 18:30~20:40 日本教育会館・一橋ホール
 - 講演：鎌田慧氏、吉原毅氏、村上達也元東海村長、おしどりマコ・ケン
- ◆10月29日(月) 関西ブロック島根原発学習会
 - 講師：芦原康江元松江市議
 - 15:00~16:30 高槻駅前総合市民センター 3階第1会議室

ストップ運転延長・再稼働署名継続

“東海第二原発の運転延長・再稼働反対、署名と原電への要請ハガキにご協力を！”

5月21日に発足した「とめよう！東海第二原発首都圏連絡会」から署名のお願いが届いています。ご協力をお願いいたします。

(三次集約10月末まで延期)

※ハガキは2枚一組150円(たんぽぽ舎で販売)

※署名の問合せ先

とめよう！東海第二原発首都圏連絡会
メール：stoptokai2.shutoken@gmail.com
電話：070-6650-5549

原発やめようニュース 反原発自治体議員・市民連盟

NO.30 2018年9月

茨城県自治体議員・市民と連携し、全国の力を集中して 東海第二原発の20年延長と再稼働を止めましょう！

東海第二原発は、7月原子力規制委員会の審査に事実上合格したものの、再稼働には安全対策工事計画と運転延長の二つの審査を11月末までにクリアする必要があります。

東海第二原発が事故を起こせば、30キロ圏に21万人が住む福島被害と比べても、96万人が住む茨城県の原発立地周辺の被害は比較にならない大きなものになります。

東海第二原発の危険性を訴えよう

東海第二原発は東京から110キロ、事故が起これば東京が被ばくする距離にあります。

危険性の第1は、東海第二原発が3.11で被災し損傷した老朽原発であることです。ケーブルの寿命が一般的には30年、特殊に原子力用でも40年で、しかも火災に脆弱な可燃性であり、難燃性ケーブルトレイを防火シートでまいただけの、危険な状態のままです。

第2に、東海第二原発の事故時の避難計画が非現実的であり、30キロ圏に住む96万人が一斉に避難することなど不可能なことです。

周辺6市村の実質的同意権の活用を

東海第二原発を止める闘いは茨城県から首都圏に広がっています。その一つは、東海村(村上前村長)が30キロ圏5市に呼びかけ粘り強い交渉を通じて勝ち取った、6市村の「実質的事前了解権」です。一市村でも同意がなければ再稼働を止めるよう求めています。

反原発自治体議員・市民連盟

共同代表 佐藤英行(北海道岩内町議会議員)
野口英一郎(鹿児島市議会議員)
福士敬子(元東京都議会議員)
武笠紀子(元千葉県松戸市議会議員)

〒168-0072
東京都杉並区高井戸東3-36-14-301
Tel/FAX 03-5936-0311
http://nonukesjapan.org/
郵便振替 00110-7-449067

二つ目は、「止めよう！東海第二原発首都圏連絡会」が結成され、原電前の抗議行動、署名運動をひろげ、東海第2原発再稼働に反対する決議や意見書が、茨城県の自治体議会から首都圏の自治体議会に広がっていることです。

三つ目に、住民運動と結び、東海第二原発の差し止めを求める裁判闘争が闘われ、大飯原発を差し止めた福井地裁判決や伊方原発の稼働を止めた広島高裁勝利に続き、東海第二訴訟の勝利をめざしています。

若狭、川内、伊方など全国の方行方決める

東海第二原発めぐる課題は、全国の原発が直面している問題です。東海第二の20年延長と再稼働を止めることは、全国の原発再稼働の歯止めとなる意義を持つものです。

若狭の原発、川内、伊方、玄海原発の再稼働を止め、今後の柏崎刈羽原発、島根原発の稼働、上関原発新設を止める大きな力となります。全国の声を集め11月末20年延長を止め、原発再稼働阻止の流れを強めましょう。



「東海第二原発STOP茨城県集会」に1千人が集い、水戸市内をデモ 9月1日

第6回福島を忘れないシンポジウムは、130人（福島48人、全国82人）の参加で、飯舘村の渡邊計議員の司会で進行しました。菅野清一川俣町議、松本静男葛尾村議から、昨年4月に「帰還」が勧められても高齢者の一部しか帰っていない現状を、飯舘村で放射線量の環境への影響を調査してきた伊藤延由さんから、動植物や昆虫などに及ぼした影響をお聞きました。生業訴訟原告団長中島孝さんは避難者の過酷な現実を報告され、福島原発被害弁護団幹事長米倉勉弁護士は、避難者訴訟では東電の責任が認められながら、責任を取らない東電を弾劾しました。最後に原子力資料情報室共同代表伴英幸さんに『福島原発事故はなぜ起きたか』と題し原発の構造や危険性を講演いただきました。

翌日は川俣町山木屋地区から浪江町の帰還困難区域をバスで見学、7年以上人が住めなくなった地域がどれほど荒廃するか、その現状を目の当たりにしました。



伊藤延由さんのパワーポイントを使った報告に聞き入る

浪江町慰霊碑前。いったん避難するも高齢者を助けるため戻り津波の犠牲となった葛尾村の高校生のお話をする松本村議



来年（2019年）は、
7月13日（土）全国シンポジウム
7月14日（日）現地視察 です

寄せられた感想から抜粋…
みなさん、ありがとうございました

◆ 3回目、毎年、変わっている。現地で頑張る市議の話が聞けるのが良い。深刻な内容、国のやり方や莫大な費用について分かった。来年も参加したい。皆と情報を共有したい。

◆初めての参加。自分に何ができるか？どんなことをやるか？を考えた。復興支援のおかしさを感じた。都会からの支援についても考えさせられた。これからの生活に生かしたい。

◆ほぼ毎年参加。現地の議員・市民の報告がきちんとしていて良い。毎年、状況が変わる。亡くなった人たちの遺志を伝えることも大切。

◆放射能が消えてない中に帰還は無理がある。帰る人も避難の人も支援する仕組みが必要だ。

◆福島の復興はゼネコンの金儲けのため？と感じた。現地の地元の議員さんが頑張っているのがすごい。また、参加したい。

◆初めて参加。福島の実態をみて分かったこと。
自分の地域でなにができるか考える。

◆今回も感心しました。よい企画だと思う。今年の講演のテーマは大切なことですが、難しかった。

◆柏崎から初めて。福島へは2年に一度くらい来ている。申し訳ないという思いがある。原発は止めようという活動をもっと頑張っていればと悔やまれる。福島の思いを知り、新潟では65%が原発反対だがもっと増やしていきたい。

◆葛尾村の避難者から、飼っていた牛を殺した話を聞いた。弱い立場の人が死ぬ。ハコモノでない支援が必要。

◆ 3回目。変わった、平らになったと感じた、さみしい気持ちもある、福島で見ることにすることが大事。もっと多くの人に参加してもらって、原発嫌だという思いをもってほしい。

◆毎回参加。最初、富岡の駅を見た時はめちゃくちゃだった。今は電車が走っている。七年で変わった。原発から放射能が降って、除染に莫大なお金。大自然は除染できない。大変なこと。当事者の話が聞けるのはここだけ。

◆3回目。まだ線量が高く、来れば収束してないことがわかる。地元の議員さんの話が良い。

菅野清一福島県川俣町議から福島原発被害の実態をお聞きし
高島みどりさんに希少生物の宝庫・上関の豊かさを学ぶ



7月22日、大阪府高槻市で反原発自治体議員市民連盟関西ブロック第2回総会・講演会を開催し、昨年の結成総会とほぼ同数の、自治体議員・市民の計72人が参加しました。

前半の総会は、昨年の結成以降の活動報告、今後の活動方針を提案・確認した他、大阪府内自治体PPS導入調査の中間報告をおこないました。PPS導入調査については今後まとめて最終報告を発表する予定です。

記念講演は、福島県川俣町議の菅野清一さんから「原発事故！避難から1年！」と題して、避難指示解除後の被災地の実態についてパワーポイントを使ってお話いただきました。復興事業のカネはどんどん来ても、元の安心

上関原発の建設を止めるために…上関町・祝島を訪ねて



関西総会で高島さんのお話を聞き、8.6ヒロシマの後、上関町と祝島に立ち寄りました。予定地は祝島の正面、祝島漁民の漁場です。祝島の闘いは36年に及びます。祝島とともに上関原発の新設を止めるために活動した高島さん。町の8割が賛成派となる上関町に移り住みました。上関の自然を守る高島さんの取組



みに漁民の理解が深まっています。原発では主張はいろいろあるけれど、「上関の自然を守ることは共通の願い」という一点です。いまクラウドファンディングでふれあい館「マルゴト」を作り発信しています。世界上関の自然に触れる中で、原力がない！」と言うそうです。

夜、私達は漁師さんの船に乗せてもらい、船上から満天の星と“天の川”を堪能しました。

祝島のびわ茶や上関の豊かな海で育った
お魚の購入で運動を支援できます
魚の問合先 090-2295-3896 三家本(みかもと)宛